

# 放射性物質含む汚泥再生品

## 工場、昨年に生産停止

三重で会合

放射性物質を含む粘土状の埋め戻し材「フェロシルト」が、愛知、岐阜各県の4カ所で利用され、一部が不適正に野積みされた問題で16日、愛知、岐阜、三重の東海3県などの8市民団体、利

用を推進するリサイクル製品として認定した三重県、製造企業による話し合いが、三重県四日市市内で初めて開かれた。この中で、企業側は四日市工場での生産を中止したことを明らかにした。市民団体側は「認定で利用が広がった。三重県には責任がある。まず認定を取り消すべきだ」としている。

フェロシルト利用業者に対し、愛知県が指導したことについて、製造元の化学メーカー石原産業（大阪市）の安藤正義・四日市工場長がまず謝罪し、「昨年12月から生産を中止している」と説明。「（指摘される放射線の問題が解決するまで再開しない）」と語った。

市民団体は各現場での状況を説明し、「対策をとるにも、各地の自治体が『認定があつて難しい』と話している」と指摘。そのうえで、三重県に認定の経緯、特に放射線についての協議内容の説明を求めた。三重県は、石原産業の申請から6カ月を経て認定したことを説明したが、放射線をめぐり協議については「記録をよく調べてみないと分からない」とし、認定の取り消しについて「検討する」と答えた。

フェロシルトは土木造成などに使う埋め戻し材。酸化チタンの製造で出る放射性物質を含む汚泥を、リサイクルして作る。石原産業四日市工場は、01年から約45万トが製造された。

愛知県瀬戸市や瑞浪市、可児市、土岐市で利用されているという。

### 「フェロシルト」製造中止

放射性物質を含む微量の放射性物質を含む埋め戻し材「フェロシルト」の使用に、県内などの住民が反発している問題で、リサイクル製品として認定した三重県、製造元の石原産業四日市工場、東海三県の住民グループによる初の三重県会合が16日、三重県

### 三重の業者 県内住民らに陳謝

砂採取後の埋め戻し材などの用途で販売。環境への悪影響があるとして、住民が使用中止や全量回収、リサイクル品の認定取り消しを求めている。同社や三重県の調べで、県内では瑞浪市で一千九百ト、土岐市で四千ト、可児市で九千六百トの使用が確認されている。会合では住民側八団体が降雨によって使用現場から流出している点を報告。リサイクル認定の経緯、危険性の認識などをたどった。住民側は「リサイクルの名を借りた廃棄物」との指摘に、同社は「廃棄物ではないと認識しているが、理解が得られなければ販売できず、製造は既に中止した。放射線の除去方法などを研究したい」とし、三重県も認定状況を再検証することを示した。